

## ヨハネ6：1-71「イエスは神の救済プラン」

6:1 その後、イエスはガリラヤの湖、すなわち、テベリヤの湖の向こう岸へ行かれた。6:2 大ぜいの人の群れがイエスにつき従っていた。それはイエスが病人たちになさっていたしるしを見たからである。6:3 イエスは山に登り、弟子たちとともにそこにすわられた。6:4 さて、ユダヤ人の祭りである過越が間近になっていた。6:5 イエスは目を上げて、大ぜいの人の群れがご自分のほうに来るのを見て、ピリポに言われた。「どこからパンを買って来て、この人々に食べさせようか。」6:6 もっとも、イエスは、ピリポをためしてこう言われたのであった。イエスは、ご自分では、しようとしていることを知っておられたからである。6:7 ピリポはイエスに答えた。「めいめいが少しずつ取るにしても、二百デナリのパンでは足りません。」6:8 弟子のひとりシモン・ペテロの兄弟アンデレがイエスに言った。6:9 「ここに少年が大麦のパンを五つと小さい魚を二匹持っています。しかし、こんなに大ぜいの人々では、それが何になりましょう。」6:10 イエスは言われた。「人々をすわらせなさい。」その場所には草が多かった。そこで男たちはすわった。その数はおよそ五千人であった。6:11 そこで、イエスはパンを取り、感謝をささげってから、すわっている人々に分けてやられた。また、小さい魚も同じようにして、彼らにほしだけ分けられた。6:12 そして、彼らが十分食べたとき、弟子たちに言われた。「余ったパン切れを、一つもむだに捨てないように集めなさい。」6:13 彼らは集めてみた。すると、大麦のパン五つから出て来たパン切れを、人々が食べたうえ、なお余ったもので十二のかごがいっぱいになった。6:14 人々は、イエスのなさったしるしを見て、「まことに、この方こそ、世に来られるはずの預言者だ」と言った。6:15 そこで、イエスは、人々が自分を王とするために、むりやりに連れて行こうとしているのを知って、ただひとり、また山に退かれた。6:16 夕方になって、弟子たちは湖畔に降りて行った。6:17 そして、舟に乗り込み、カペナウムのほうへ湖を渡っていた。すでに暗くなっていたが、イエスはまだ彼らのところに来ておられなかった。6:18 湖は吹きまくる強風に荒れ始めた。6:19 こうして、四、五キロメートルほどこぎ出したころ、彼らは、イエスが湖の上を歩いて舟に近づいて来られるのを見て、恐れた。6:20 しかし、イエスは彼らに言われた。「わたしだ。恐れることはない。」6:21 それで彼らは、イエスを喜んで舟に迎えた。舟はほどなく目的の地に着いた。6:22 その翌日、湖の向こう岸にいた群衆は、そこには小舟が一隻あっただけで、ほかにはなかったこと、また、その舟にイエスは弟子たちといっしょに乗られないで、弟子たちだけが行ったということに気づいた。6:23 しかし、主が感謝をささげられてから、人々がパンを食べた場所の近くに、テベリヤから数隻の小舟が来た。6:24 群衆は、イエスがそこにおられず、弟子たちもいないことを知ると、自分たちもその小舟に乗り込んで、イエスを捜してカペナウムに来た。6:25 そして湖の向こう側でイエスを見つけたとき、彼らはイエスに言った。「先生。いつここにおいでになりましたか。」6:26 イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたがわたしを捜しているのは、しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹したからです。6:27 なくなる食物のためではなく、いつまでも保ち、永遠のいのちに至る食物のために働きなさい。それこそ、人の子があなたがたに与えるものです。この人の子を父すなわち神が認証されたからです。」6:28 すると彼らはイエスに言った。「私たちは、神のわざを行うために、何をすべきでしょうか。」6:29 イエスは答えて言われた。「あなたがたが、神が遣わした者を信じること、それが神のわざです。」6:30 そこで彼らはイエスに言った。「それでは、私たちが見てあなたを信じるために、しるしとして何をしてくださいますか。どのようなことをなさいますか。6:31 私たちの父祖たちは荒野でマナを食べました。『彼は彼らに天からパンを与えて食べさせた』と書いてあるとおりです。」

6:32 イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。モーセはあなたがたに天からのパンを与えたものではありません。しかし、わたしの父は、あなたがたに天からまことのパンをお与えになります。6:33 というのは、神のパンは、天から下って来て、世にいのちを与えるものだからです。」6:34 そこで彼らはイエスに言った。「主よ。いつもそのパンを私たちにお与えください。」6:35 イエスは言われた。「わたしがいのちのパンです。わたしに来る者

は決して飢えることがなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決して渴くことはありません。**6:36** しかし、あなたがたはわたしを見ながら信じようとしないと、わたしはあなたがたに言いました。**6:37** 父がわたしにお与えになる者はみな、わたしのところに来ます。そしてわたしのところに来る者を、わたしは決して捨てません。**6:38** わたしが天から下って来たのは、自分のところを行うためではなく、わたしを遣わした方のみこころを行うためです。**6:39** わたしを遣わした方のみこころは、わたしに与えてくださったすべての者を、わたしがひとりも失うことなく、ひとりひとりを終わりの日によみがえらせることです。**6:40** 事実、わたしの父のみこころは、子を見て信じる者がみな永遠のいのちを持つことです。わたしはその人たちをひとりひとり終わりの日によみがえらせます。」**6:41** ユダヤ人たちは、イエスが「わたしは天から下って来たパンである」と言われたので、イエスについてつぶやいた。**6:42** 彼らは言った。「あれはヨセフの子で、われわれはその父も母も知っている、そのイエスではないか。どうしていま彼は『わたしは天から下って来た』と言うのか。」**6:43** イエスは彼らに答えて言われた。「互いにつぶやくのはやめなさい。**6:44** わたしを遣わした父が引き寄せられないかぎり、だれもわたしのところに来ることはできません。わたしは終わりの日にその人をよみがえらせます。**6:45** 預言者の書に、『そして、彼らはみな神によって教えられる』と書かれています。父から聞いて学んだ者はみな、わたしのところに来ます。**6:46** だれも父を見た者はありません。ただ神から出た者、すなわち、この者だけが、父を見たのです。**6:47** まことに、まことに、あなたがたに告げます。信じる者は永遠のいのちを持ちます。**6:48** わたしはいのちのパンです。**6:49** あなたがたの父祖たちは荒野でマナを食べたが、死にました。**6:50** しかし、これは天から下って来たパンで、それを食べると死ぬことがないのです。**6:51** わたしは、天から下って来た生けるパンです。だれでもこのパンを食べるなら、永遠に生きています。またわたしが与えようとするパンは、世のいのちのための、わたしの肉です。」**6:52** すると、ユダヤ人たちは、「この人は、どのようにしてその肉を私たちに与えて食べさせることができるのか」と言って互いに議論し合った。**6:53** イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。人の子の肉を食べ、またその血を飲まなければ、あなたがたのうちに、いのちはありません。**6:54** わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠のいのちを持っています。わたしは終わりの日にその人をよみがえらせます。**6:55** わたしの肉はまことの食物、わたしの血はまことの飲み物だからです。**6:56** わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、わたしのうちにとどまり、わたしも彼のうちにとどまります。**6:57** 生ける父がわたしを遣わし、わたしが父によって生きているように、わたしを食べる者も、わたしによって生きるのです。**6:58** これは天から下って来たパンです。あなたがたの父祖たちが食べて死んだようなものではありません。このパンを食べる者は永遠に生きています。」**6:59** これは、イエスがカペナウムで教えられたとき、会堂で話されたことである。**6:60** そこで、弟子たちのうちの多くの者が、これを聞いて言った。「これはひどいことばだ。そんなことをだれが聞いておられようか。」**6:61** しかし、イエスは、弟子たちがこうつぶやいているのを、知っておられ、彼らに言われた。「このことでああなたがたはつまづくのか。**6:62** それでは、もし人の子がもといた所に上るのを見たら、どうなるのか。**6:63** いのちを与えるのは御霊です。肉は何の益ももたらしません。わたしがあなたがたに話したことばは、霊であり、またいのちです。**6:64** しかし、あなたがたのうちには信じない者がいます。」——イエスは初めから、信じない者がだれであるか、裏切る者がだれであるかを、知っておられたのである——**6:65** そしてイエスは言われた。「それだから、わたしはあなたがたに、『父のみこころによるのでないかぎり、だれもわたしのところに来ることはできない』と言ったのです。」**6:66** こういうわけで、弟子たちのうちの多くの者が離れ去って行き、もはやイエスとともに歩かなかった。**6:67** そこで、イエスは十二弟子に言われた。「まさか、あなたがたも離れたいと思うのではないでしょう。」**6:68** すると、シモン・ペテロが答えた。「主よ。私たちがだれのところに行きましょう。あなたは、永遠のいのちのことばを持っておられます。**6:69** 私たちは、あなたが神の聖者であることを信じ、また知っています。」**6:70** イエスは彼らに答えられた。「わたしがあなたがた十二人を選んだのではありませんか。しかしそのうちのひとりには悪魔です。」**6:71** イエスはイスカリオテ・シモンの子ユダのことを言われたのであった。このユダは十二弟子のひとりであったが、イエスを売ろうとしていた。

## 導入

6章の学びに入る前に、旧約聖書の背景を見ていきましょう。

出エジプト記：神は、エジプトで奴隷であった民を救い出し、祖先に約束された地へと導かれました。

この救出劇には、あらゆる不思議なしるしが伴いました。そのひとつが「過ぎ越し」です。過ぎ越しについては出エジプト記12章に記されています。神は、エジプト全土に裁きをもたらされ、人も家畜もその長子を殺されました。この出来事の後、イスラエルの民にとって試練の時がやってきました。彼らは40年間も荒野をさまよいました。約束の地の制覇を神が助けてくださると信じなかったからです。

結局、神は民を約束の地に入れてくださいました。エジプトを出て約束の地に入るまでの期間は、イスラエルの民がいくつかのことを理解する上で重要でした。まず、彼らが神のものであること、そして神の民を奴隷から救い出されたのは神ご自身であることです。神は、人々を救い出してご自身のもとに帰らせてくださる神です。

民が神に逆らったので、神は民を罰せられました。外国人によって囚われる身となったのです。それでも神は、新しい指導者のもとで「新たな出エジプト」があるとイザヤをとおして約束してくださいました（イザヤ11：15-16）。

この時から、イスラエル人は神の救いのご計画の実現を待ち望んでいました。

神は、エジプトから脱出したことをイスラエルの民に忘れてほしくありませんでした。それで、「過ぎ越し」という祭りを毎年祝うよう制定されました。こうすれば、民はエジプトから救われたことを思い出すことができます。私はユダヤ人の過ぎ越し祭に何度も行ったことがあります。エルサレムで参加したことはありません。このお祝いの儀式は3-4時間かかります。終わるころには、奇跡的な救済プランを実行してくださった神の全能の御手を疑う余地はありません。神は、銃も爆弾も使わずに300万人もの人々を救出されたのです。

神は、40年の荒野生活の間、「マナ」というパンも与えてくださいました。300万人の人々の空腹を満たすだけが目的ではありません。これは、民を試すためでした。では、出エジプト16：4を読みましょう。

出 16:4 【主】はモーセに仰せられた。「見よ。わたしはあなたがたのために、パンが天から降るようにする。民は外に出て、毎日、一日分を集めなければならない。これは、彼らがわたしのおしえに従って歩むかどうかを、試みるためである。

日々の必要についても、救ってくださったお方だけを民が頼るかどうかを神は試されました。

今日のみことばを理解するために、もう一カ所、旧約聖書のみことばを見る必要があります。申命記18：15-18です。

18:15 あなたの神、【主】は、あなたのうちから、あなたの同胞の中から、私のようなひとりの預言者をあなたのために起こされる。彼に聞き従わなければならない。 18:16 これはあなたが、ホレブである集まりの日に、あなたの神、【主】に求めたそのことによるものである。あなたは、「私の神、【主】の声を二度と聞きたくありません。またこの大きな火をもう見たくありません。私は死にたくありません」と言った。 18:17 それで【主】は私に言われた。「彼らの言ったことはもっともだ。 18:18 わたしは彼らの同胞のうちから、彼らのためにあなたのようなひとりの預言者を起こそう。わたしは彼の口にわたしのことばを授けよう。彼は、わたしが命じることをみな、彼らに告げる。

ヨハネ6：14には、人々の考え方があらわれています。聖書箇所の内容を理解するには、当時の人々の考え方を理解する必要があります。

次に、「水を分ける」という奇跡は、救いのご計画の一部であったことを覚えていなければなりません。神は、葦の海を分けて民をエジプトから脱出させ、洪水の起こりやすい時期にヨルダン川を分けて民を約束の地に導き入れられました。

神に選ばれた救出者なら、誰でも海を分けることができます。イエスは水の上を歩いて来られ、救いのご計画の中のこの部分を民に思い出させてくださいました。

これらの旧約聖書の背景を覚えておくと、今日の聖書箇所がよりよく理解できるでしょう。

今日の箇所ではおもに3つの事柄が取り上げられています。まず、イエスが神の救済を実現するために来られたという証拠です。そのために、イエスはもうひとつのしるしを行われました（1-21節）。

次に、人々の動機があらわにされます。また、しるしの意味が説明され、人々が招きを受けます。

最後に、弟子たちがイエスの教えを受け入れず、去って行ったできごとです。

### 1. イエスが神の救済を実現するために来られたという証拠(1-21節)

まずわかるのは、これが「過ぎ越し」の時期だったことです（4節）。この時期、人々の思いは救い主である神に向けられていました。神が救ってくださるという約束がまもなく成就するという期待感が人々の間にありました。

次に、イエスはパンを奇跡的に増やし、群衆の空腹を満たされました。ここで重要なのは、大群衆にパンを与えるという奇跡ではありません。もちろんこれ自体が奇跡ですが、重要なことは14節に記されています。

人々は、「世に来られるはずの預言者」と奇跡を関連付けました。

この預言者については先ほどの申命記18：15-18で学びました。

知恵のある人たちはイエスが約束された救い主だと気づきましたが、他の人たちはただ奇跡が目的でそこにいました。

知恵のある人たちは、イエスとモーセをつなげて考えました。

神はモーセをとおして民を救い、必要を満たされました。そして今、イエスを通して人々を救い、必要を満たしておられます。

次に、イエスはガリラヤ湖の水の上を歩かれたとあります。この奇跡は、イエスがイザヤ書11章に記された救い主であることを確証付けます。

これまでのヨハネの福音書の学びで、イエスが行われた「しるし」は、人々を喜ばせたり個人のニーズに応えたりするための単なる奇跡ではないことがわかりました。

1-21節のしるしは、ここに登場する奇跡よりもさらに偉大な奇跡を起こすためにイエスが来られたことを人々に知らせるためのものでした。イエスは、人々を罪から救うために来られました。新しい満ち満ちたいのちを与えるために来られました。神の怒りから人々を救うために来られたのです。

他に救済プランはありません。イエスこそが救済プランそのものなのです。

今日私たちは自ら問いかけなければなりません。「イエスが人生で唯一の救済プランであることをわかっているだろうか。他に頼みとしているものはないだろうか。」と。お金や

善い行い、学歴、以前信仰していた宗教、生死に対する自分なりの解釈、自分の考え、どんなものであっても、イエスによる救済プランを100%信頼するものでないなら、その行く末は挫折です。そこに希望はありません。私たちの希望は唯一イエスにあります。

何千人もの人々に食事を与えることで、弟子たちは試されました。

この結果、弟子たちはイエスの教えを信頼したでしょうか。

## 2. 動機があらわになる。しるしの意味が説明される。人々は招きを受ける。(22-40節)

### a) 動機があらわになる。－ 26-27節

26-27節で、イエスは人々の動機をあらわにされました。

イエスは、人々がイエスについていくのは、「しるし」のせいではなく、魚定食がおいしかったからだとおっしゃいました。つまり、奇跡に込められた霊的な意味をわかっていない人がいたということです。ただで昼ごはんを食べただけだけというわけです。

イエスは、無料の昼食よりすばらしいものがあると人々に教えられました。お腹が空いているときに、無料の昼食よりすばらしいものなどあるでしょうか。それは、永遠のいのち、罪の赦し、死への勝利、天国の家、地上での平安、創造主との一対一のつながりです。このような霊的な恩恵に与れるなら、無料の昼ごはんをもらえなくてもそれ以上の価値があります。

今日、ここ OIC にいる方もインターネットで聞いている方も、イエスがあなたの動機をあらわにされることは間違いありません。私たちは、聖霊の力によってみことばをとおしてイエスに指摘されるまで、自分の動機に気づかないこともあります。

### b) しるしの意味が説明される。－27-34節

イエスはこれらのしるしについて、「父の働き」(27節)という見地から説明されます。

32節で、イエスは「父が与えたもの」とおっしゃいます。無料の昼食がお腹を満たすために与えられたものであったように、人々を永遠のいのちに至らせるためにイエスが与えられました。私たちが救われるのは「恵み」により、これは神からの賜物であると聖書は語ります。イエスは、神が私たちに与えてくださった愛のプレゼントなのです。今日ここにいる私たち、そしてインターネットで聞いているすべての方への神の賜物です。

これはすばらしい賜物です。軽んじたり断ったりしないでください。

38節には、それが神のみこころであると記されています。

父なる神は、私たちがイエスを信じることを求められます。イエスは、私たちの霊を養い、永遠のいのちを与えてくださるお方です。父の賜物は、天から来られた真のパンです。

27節には、なくなる食べ物のためにあくせくしないようにという警告があります。この世の物事に気を取られてはいけません。この世の物事はいつかなくなりますし、たましいを満たしてくれることはありません。

c) 人々は招きを受ける。－37-40節

37節で、イエスのもとへ来なさいという招きはすべての人に与えられています。イエスのもとにやっけてきて断られる人は誰もいません。イエスのもとに来る人は皆、満たされます。35節は、イエスのもとに来るなら、完全に満たされると語ります。

この招きは、永遠のいのちへと復活するという保証を提供します。イエスを信じて身許に来るとするのは、一時的なことではありません。終わることのない永遠の絆です。

人間関係が終わりを告げるのはつらいものです。しかし、今ここでイエスとつながるなら、その関係は終わることがありません。イエスがそう約束してくださいませ。私たちはその約束を信頼することができます。がっかりさせられることは決してありません。

今日、イエスはあなたを招いておられます。たましいを満たそうと約束されます。今、悩みも重荷も持ったまま、ありのまま、イエスのもとに行きませぬか。

3. 弟子たちがイエスの教えを受け入れず、去って行く。(41-71節)

イエスは43-46節で、なぜユダヤ人たちがイエスのことばを信じなかつたかを説明されます。

44節で、父が人を導いて初めて、人は永遠のいのちをいただくためにイエスのもとに来るとおっしゃいました。イザヤ54：13のみことばは、本当に神に属する人は常に、神のことばに喜んで耳を傾けて学ぶ人だと教えてくれます。

人が神のことばに耳を傾けるとき、父が働いてくださるのです。

イエスは65節でも繰り返そうおっしゃいます。

私たちはキリスト教という宗教を売り込んだり、無理やり信じさせようとしたりする必要はありません。ただ、神のみことばである聖書から、真理をはっきりと知らせるのです。そうすれば、話を聞いて真理について考えようと思う人も出てくるでしょう。

残念ながら、真理を拒む人もいます。

51-58節で、イエスはむずかしい内容の話をされます。

これが過ぎ越しの時期であることを忘れてはいけません。人の子の肉を食べ、血を飲むという表現は、過ぎ越しのいけにえの羊とイエスの死を関連づけます。

51節でイエスがおっしゃったことばをユダヤ人は理解できませんでしたが、イエスのご自身の死の本質は永遠のいのちを得るためであると強調されました。

イエスは、イエスの死によらなければ、人はいのちを持たないとおっしゃいました(53節)。

ご自身の死が救いの業に不可欠だというわけです。

イエスは「わたしの肉を食べる」とおっしゃいましたが、これはどういう意味でしょう。その答えは、35節、40節、47節、63節にあります。

この問いに答えるため、これらの箇所をもう一度見てみましょう。

6:35 イエスは言われた。「わたしがいのちのパンです。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決して渴くことはありません。

6:40 事実、わたしの父のみこころは、子を見て信じる者がみな永遠のいのちを持つことです。わたしはその人たちをひとりひとり終わりの日によみがえらせます。」 6:41 ユダヤ人たちは、イエスが「わたしは天から下って来たパンである」と言われたので、イエスについてつぶやいた。

6:47 まことに、まことに、あなたがたに告げます。信じる者は永遠のいのちを持ちます。

6:63 いのちを与えるのは御霊です。肉は何の益ももたらしません。わたしがあなたがたに話したことばは、霊であり、またいのちです。

この章で、食べるとはイエスの教えを信じることを指しています。

イエスの教えには、世の身代わりとなってご自身が死ぬという予言も含まれます。

60-71節では、イエスの弟子の多くがイエスから離れて行ったことがわかります（66節）。

これまでは、イエスに対して文句を言っていたのはユダヤ人だけでした。

ここで、弟子たちまでがイエスの教えを受け入れられなくなったのです。

イエスが天から来られたという超自然的な素性を弟子たちは受け入れることができませんでした。

イエスが過ぎ越しの羊であられることも受け入れられませんでした。

神が私たちの罪を負って死ぬために人の姿で地上に来られたという事実に納得できませんでした。

イエスは63節で、聖霊が霊のいのちをもたらすお方だということを示し、この章全体を説明なさいます。

このいのちは、聖霊がイエスのことばをとおして与えてくれます。

神の聖霊が、イエスのことばを離れて働くことはありません。

これからとても大切なことを言いますので、よく聞いてください。

イエスが与えてくださる永遠のいのちは、イエスのことばをとおして聖霊によってのみ与えられるのです。私たち人間の努力は何の役にも立ちません。

残念ながら、弟子たちをはじめ多くの人がこの教えを受け入れることができませんでした。

最後に、イエスが12弟子に向かい、「まさか、あなたがたも離れたと思うのではないでしょう。」と67節でおっしゃいます。

ペテロは68-69節で、「主よ。私たちがだれのところに行きましょう。あなたは、永遠のいのちのことばを持っておられます。私たちは、あなたが神の聖者であることを信じ、また知っています。」と答えます。

ペテロは、イエスとともに生きていました。彼は、イエスが神の子であることを知っていました。ペテロは奇跡だけでなく、イエスのことばや生き方を見て、そう信じたのです。

さて、今日の聖書箇所から、日本に住む OIC の私たちにどのように当てはめて考えることができるでしょうか。

まず当時の人々にとってどういう意味かを考えることで、今日の私たちにとってどういう意味かがよりよくわかるでしょう。

当時の人々にとって — ユダヤ人は救いを待ち望んでいました。しかし、彼らは間違った救いのイメージを思い描いていました。

彼らの求めていたのは、目前にあるニーズに応じてくれる物質的なものでした。出エジプトから学ぶべき教訓を体得せず、出エジプトが前もって示した出来事に気づくことができませんでした。

その出来事とは、イエスをとおして神が永遠のいのちを与えてくださることです。イエスは、永遠のいのちを与えるために救いに来たことを明確にされました。イエスが群衆の期待に左右されることはありません。

イエスのもとに来ようとする人には誰でも、イエスははっきりと招いてくださいます。

今日の私たちにとって — 今日のみことばから、私たちは課題を得ました。それは、イエスのおことばどおりにイエスを信じることです。現代社会は、物質主義で今を何より大事にします。教会にいるクリスチャンでも、健康が守られて日々の必要が満たされることしか考えていない人がいます。そういう人たちの興味は、健康、富、繁栄にあります。

私たちが神に祈るとき、地上での必要以上の内容が神の耳に届いているでしょうか。

信仰生活が深められるように、みことばがもっとわかるように、という願いを神にささげていますか。神にお仕えしたいという願いを神に伝えているでしょうか。

私たちの祈りの内容は、目前にあるニーズについてでしょうか。それとも、神のみこころにそって変えられること、神の御国、そして神のご支配についてでしょうか。

この問いに正直に答えられるのは私たち自身だけです。イエスの弟子であることは、教会で座っていること以上の意味があります。それは、人生においてこのお方を第一にしようとするイエスとのつながりです。

聖書は、神の国と神の義をまず求めれば、すべての必要は神が満たしてくださるので、神にお任せできると語ります。また、私たちが願う前から、私たちに必要なものはすべて神がご存じだとも語ります。

ですから今週、祈りましょう。他の人の必要のために、私たち自身の信仰の成長や発展のために、そしてみこころにかなった方法でイエスに仕えたいと思う心を与えられるように祈りましょう。

すばらしい一週間をお過ごしください。